

令和3年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

|               |                 |      |
|---------------|-----------------|------|
| 団 体 名         | 公益財団法人札幌市芸術文化財団 |      |
| 施 設 名         | 札幌芸術の森          |      |
| 助 成 対 象 活 動 名 | 人材養成事業          |      |
| 内定額(総額)       | 16,138          | (千円) |
| 公 演 事 業       | 0               | (千円) |
| 人材養成事業        | 16,138          | (千円) |
| 普及啓発事業        | 0               | (千円) |

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

| 番号 | 事業名            | 主な実施日程                      | 概要<br>(演目、主な出演者、スタッフ等)   | 入場者・参加者数 |   |
|----|----------------|-----------------------------|--|----------|---|
|    |                | 主な実施会場                      |  | 目標値      | 実績値   |
| 1  | 札幌ジュニアジャズスクール※ | 令和3年4月～<br>令和4年3月           | [参加者]小学生クラス23名、中学生クラス21名(オーディションにより選出)<br>[講師]杉本武志(元中学校音楽教諭)、中嶋和哉(プロジャズトランペッター)  | 目標値      | 受講者数<br>50人、<br>入場者数<br>5,200人                |
|    |                | 札幌芸術の森、<br>札幌駅前地下歩行空間、<br>他 |  | 実績値      | 受講者数<br>44人、<br>入場者数<br>2,069人                |
| 2  | 北海道グループキャンプ※   | 令和4年3月26日～<br>3月30日(中止)     | [講師]タイガー大越(tp)、マーク・ウォーカー(dr)、マルコ・ピグナタロ(sax)、ジョージ・ラッセル(pf)  | 目標値      | 受講・聴<br>講生数：<br>106人、<br>成果発表<br>入場者数<br>200人 |
|    |                | 札幌芸術の森<br>アートホール            |  | 実績値      | —   |
| 3  | ユースジャムセッション※   | 令和3年4月～<br>令和4年3月           | [講師等]芸術監督：タイガー大越(パークリー音楽大学教授)<br>音楽監修：デビッド・マシューズ<br>主任講師：橋爪亮督<br>講師：小野健悟(サクソフ奏者、札幌ジャズアンビシャスメンバー)、菅原昇司(トロンボーン奏者、札幌ジャズアンビシャスメンバー)、花田進太郎(ギター奏者、札幌ジャズアンビシャスメンバー)、柳真也(ベース奏者、札幌ジャズアンビシャスメンバー)、杉本武志(札幌ジュニアジャズスクール講師)、中嶋和哉(トランペット奏者、札幌ジャズアンビシャスメンバー、札幌ジュニアジャズスクール講師)<br>ジャズコーラス講師：箭原顕(音楽プロデューサー、ハウスオブジャズ主宰)<br>[参加者]札幌ジュニアジャズスクール中学生クラス、SAPPORO CITY JAZZ VOICES、ユーススペシャルバンドメンバー、札幌ジャズアンビシャス、クリスタルスノー・スペシャル・ストリングス | 目標値      | 入場者数<br>975<br>人、<br>参加者数<br>100人             |
|    |                | 札幌芸術の森、<br>札幌市教育文化会館、<br>他  |  | 実績値      | 入場者数<br>1,586<br>人、<br>参加者数<br>66人            |

|   |                   |                       |  |     |                                      |
|---|-------------------|-----------------------|--|-----|--------------------------------------|
| 4 | ジャズサロン・プランナー育成講座※ | 令和3年6月～12月            | [講師] 関鎖京（北海道教育大学岩見沢校/准教授）<br>[コーディネーター] 村川佳宏（プロミュージシャン）、山木将平（プロミュージシャン）<br>[サロン特別講師]<br>・福津京子（「札幌人図鑑」主宰）   | 目標値 | 受講者数<br>20人、<br>入場者数<br>100人         |
|   |                   | 札幌市民交流プラザ             |  | 実績値 | 受講者数<br>8人、<br>入場者数<br>84人           |
| 5 | パークジャズライブコンテスト※   | 令和3年11月17日            | 出演バンド：Big Sounds Society Orchestra（東京都）、Abucon（札幌市）、Hiroki Miura Trio（札幌市）、KEIKO NAKAHARA TRIO（神奈川県）、N x N Duo（千葉県）、snack time（札幌市）、sqidoo（東京都）、青野和範 Sapporo Quartette（愛媛県）、草田一駿 五重奏体系（東京都）、庄子篤史とオータムホリデーズ（札幌市）<br>MC：タック・ハーシー（ラジオパーソナリティー）<br>審査員：加瀬谷純二（株式会社エフエムノースウェーブ 常務取締役）、小林栄（株式会社ブルーノートジャパン 取締役）、高橋教太（株式会社エフエム北海道特別推進プロジェクト担当局長）、三森隆文（株式会社ジャズジャパン 代表取締役）宮越陽一（株式会社宮越屋珈琲 代表取締役） | 目標値 | 参加者<br>100バンド、来場者<br>400人            |
|   |                   | 札幌市民交流プラザ             |  | 実績値 | 参加者<br>71バンド、<br>Web アクセス数<br>31,727 |
| 6 | ジャズセーバーズ※         | 令和3年12月1日～<br>12月7日、他 |  | 目標値 | ボランティア登録者：120人<br>活動延べ人数：450人        |
|   |                   | 札幌市民交流プラザ、他           | ボランティア講師：<br>（夏）撮影：原田直樹（n-foto 合同会社）、運営：青山夕香（株式会社青山プロダクション）<br>（冬）撮影：千秋理央（サントリーパブリシティサービス株式会社）   | 実績値 | ボランティア登録者：108人<br>活動延べ人数：188人        |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

| 自己評価   |
|--|
| <p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>  |
| <p>北海道の経済・文化の中心地である札幌市は、創造都市さっぽろ宣言を行いサッポロ・シティ・ジャズ、国際芸術祭など多様な芸術文化事業を実施している。札幌市が行った文化芸術意識調査（令和3年度）では9割を超える市民が「文化芸術活動が重要である」との認識を示し、また、半数以上が文化芸術の振興による社会的効果へ期待することとして「子どもの豊かな心の育み」、文化芸術を活かした方が良いと感じるものとして「教育」と回答しており、若い世代の担い手育成や、文化芸術を通じて学び成長できることが望まれている。</p> <p>「札幌芸術の森」は、音楽・舞台芸術、美術、工芸の各分野の様々な施設を有し、創作、発表、鑑賞それぞれの機能を持つ札幌市の芸術文化拠点のひとつである。音楽・舞台芸術分野においては、一年を通じ、ジュニアジャズスクールやグループキャンプ、ユースジャムセッション、パークジャズライブコンテストなど人材養成を軸として、野外ステージでの公演等を継続して実施し、「練習」「創作」「発表」の複合的役割を担う施設の特性を十分に生かした事業を展開している。</p> <p>計画の具体例として、ジャズスクールでは、子どもたちが演奏技術を学ぶだけではなく、自主性や協調性を高め感性を育むことを主な目的としていることから1年を通じて多彩なプログラムを組み入れている。令和3年度は芸術の森アートホールでの定期練習、外部での演奏会、植樹や福祉施設訪問等の社会活動などを計画していたが、新型コロナウイルスの影響により定期練習は半数が休みとなり、外部での演奏機会はほぼ全てが中止となった。しかし、定期練習の代替としてオンラインによるパート練習や少人数ごとの交流会を開催し、外部演奏会の代替としては、芸術の森施設内でのミニライブを開催するなど、実施可能なかたちを都度検討しながら休止することなく活動を継続した。</p> <p>スクール以外の事業も新型コロナウイルス感染症の影響により当初の計画を一部変更を行いながら、事業の趣旨・目的にそえるよう手法を工夫して実施した。</p> |
| <p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>  |
| <p>【文化的意義】ジャズスクールは22年目、パークジャズライブコンテストは14回目の開催であり、継続実施することにより、札幌や道内の地元のみならず、全国や世界でも活躍する人材やバンドを輩出している。ユースジャムセッションは、ジャズスクールや北海道グループキャンプでの実績を基に、若者による新たな音楽の創造の挑戦に取り組み、参加者や観客に創造的な刺激や感動を与えることができた。</p> <p>【社会的意義】市民に参加の機会や活躍の場を提供するボランティア活動のジャズセーバーズには、新型コロナウイルスの感染拡大によって多くのイベントが中止されるなか、多くの市民が参加し、やりがいや達成感を持ちながら、事業を支える役割を担った。ジャズサロン・プランナー育成事業は、さらに主体的に自ら事業企画する人材を育てる事業として実施し、地域社会の芸術文化を通じた活性化に寄与した。</p> <p>【経済的意義】すべての事業が地元の音楽家、音楽プロデューサーやプランナー、舞台関係者との協力により成り立っており、事業をコロナ禍の中においても事業を工夫して継続することにより地元関係事業者への発注業務を維持した。また事業を通して、地域（北海道・札幌）に根付く演奏・参加・企画・運営・鑑賞など多種多様な文化芸術活動の機会を創出した。スクールやコンテストで育まれる芸術文化の担い手やボランティア活動を通じた体験や出会いで育まれる人の交流を礎として、地域の活性化に繋がって行くことから、人材育成事業を継続する意義は非常に高いと考えている。</p>   |

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

※中止となった北海道グループキャンプを除く

＜参加者数・入場者数・アクセス数・活動回数＞

人材養成事業における定量的な目標として、「参加者数・入場者数」を設定したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、ライブでの開催を中止し、代替としてウェブ配信によるオンライン開催に切り替えた事業については視聴回数の目安となる「アクセス数」をもって評価数とした。事業の中には、アクセス数が当初の目標入場者数と比較し大きく上回ったものもあり、インターネットを通じて広く発信することができ、視聴者にとっては自宅にいながらライブをみられるなど新たな客層に事業を改めて知ってもらう機会となった。

〔参加者数〕

ジャズスクール 44 人（対目標 88%）、ジャズサーバーズ登録者数 108 人（対目標 90%）、

〔入場者数〕

ユースジャムセッション 1,586 人（対目標 163%）、ジャズサロン・プランナー育成講座 84 人（対目標 84%）

※参加者数、入場者数では概ね目標値を達成することができた。

〔活動回数〕

ジャズスクール 定期練習 38 日間（対目標 54%）、演奏会等 13 回（対目標 32%）

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、内容の一部変更を余儀なくされた。ジャズスクールは、参集しての練習は当初予定どおりにはできなかったが、感染対策を十分に講じオンラインも積極的にすすんで導入し参加者の安心・安全を優先しながら活動を継続することができた。

〔アクセス数〕

パークジャズライブコンテスト 3,925（※要望時にはライブ形式で 400 人）

ライブ開催を中止した「パークジャズライブコンテスト」は、前年比 150%越えの 71 組がエントリーし、レベルの高い 10 組によるコンテストになった。ライブ形式であれば来場可能数は数百人ほどに限られたがウェブアクセス数は 4,000 近くで、ファイナリストバンドを知り演奏を聞ききっかけづくりとして、結果的に広く発信することができた。

＜障がい者の参加率に対する定量的評価＞

・新型コロナウイルスの影響により、身体に障がいをもつ方々の参加・来場を促すことは従前と比べてさらに難しくなった。例年わずかながらジャズサーバーズに障がい者の参加が継続されていたが、コロナ以降は残念ながら参加がなくなってしまっている。また、札幌市内の福祉施設等でのクラスターが相次いだこともあり、多いときには月 2~3 回開催されていたジャズスクールのアウトリーチ事業も実施に至らず、当初目標としていた社会的包摂は思うように実現することができなかった。

＜コロナ禍における事業評価指標＞

・会場の収容人数の制限や、感染状況が著しく悪化したときには活動を一時的に中止するなど、事業実施に際する新型コロナウイルス感染症の影響は大きいと予期できず避けることはできない。要望時に設定していた参加者数・入場者数・活動回数などによる事業の評価も困難であったことから、人材養成事業においては、参加者・入場者の満足度を指標に設定し、事業終了後のアンケートで事業の質の高さによる評価を導入することなどについて今後は検討したい。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

※中止となった北海道グルーブキャンプを除く

助成対象事業全般において、新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業期間の変更を行うこととなり、事業によっては実施回数の削減等を余儀なくされたが、事業の開催方法を工夫し、当初計画では描けなかったほどの実りある成果を収めることができた。

具体的な事例として、【事業番号1】札幌ジュニアジャズスクールでは、例年70日ほど確保できた定期練習の日数が半減したが、その一方で、在宅練習を充実させ、オンラインでの音楽交流に加え、受講生自らがモデルとなる写真交流も実施し、自信をもって表現することの大切さを共有することができた。また、2年ぶりに市外のジャズスクールとの交流活動を再開させ、オンラインライブとリアルライブを融合させたハイブリッドライブに挑戦し、道内4地域の同世代とともに、ジャズ音楽による創造性、バンド活動を通しての協調性、演奏会や地域交流を通じた社会性を養うことができた。

また、【事業番号5】パークジャズライブコンテストでは、コンテスト参加バンドの6割が道外勢ということもあり、コロナ禍にあって一堂に会してのライブ形式での開催はできなかった。しかしながら、音源のみの審査となったが、Webを通して参加バンドを紹介する機会を作り、参加バンドの飛躍の場を途絶えさせることなく、支援を継続した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

※中止となった北海道グルーブキャンプを除く

当初計画からの大きな変更点については、新型コロナウイルス感染症の拡大による制限が大きな要因となり、事業費については以下の事象が発生することとなった。

- ・【事業番号1】札幌ジュニアジャズスクールについては、ミュージックランプ及び最終ライブを中止したことに伴い、係る出演料および旅費交通費、舞台設営費が大きな減額となった。
- ・【事業番号3】ユースジャムセッションについては、指導者、出演者の変更や成果発表の規模を縮小したことに伴い、事業費全般が大きく減額するかたちとなった。
- ・【事業番号4】ジャズサロン・プランナー育成講座では、コーディネーターを変更したことに伴い、旅費・謝金 that 大きな減額となった。
- ・【事業番号5】パークジャズライブコンテストについては、ライブ形式での開催を中止し、オンライン開催に変更したことにより、事業費全般が大きく縮減するかたちとなった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

◆文化拠点としての人脈を生かし、人材養成事業に世界トップクラスの指導者を招聘。地元ミュージシャン参加とあわせ手厚い指導とサポート体制を確立

ユースジャムセッションでは、夏に、これまでの主催事業での関係性をもとに、芸術監督にパークリー音楽大学教授のタイガー大越氏を迎え、リモート形式で、熱いレクチャーとメッセージを参加者に届けたほか、講師には東京からパークリー音楽大学出身のサクソプレイヤー橋爪亮督氏を招きワークショップを開催。サポート役として芸術の森が主催するビッグバンドのメンバーを起用し、子どもたちを細やかに見守り一緒に演奏しながら力を引き出し伸ばす環境を整えるとともに、これまで実施してきた若手育成セミナー「北海道グループキャンプ」の運営ノウハウを基に充実したプログラムを整えることができた。冬には、前出のビッグバンドとユースメンバーによるステージでの共演を実施。プロのビッグバンドならではのスケール感あるサウンドづくり、アドリブでの大人とユースの白熱するかけあいなど、夏とは異なるジャズの音楽創造を行うことができた。さらに通年を通して今年度初めて実施したジャズコーラスワークショップでは、札幌のボイストレーナーを講師に、リモートレッスンを駆使しながら5声の様々な楽曲に挑戦し、市内の公共施設等で無料のミニライブに出演。若者によるジャズコーラス演奏は珍しく大変好評であり、過半数の受講生が次年度継続を希望している。

◆事業の信頼性を高めるための専門家や地域人材の積極的な活用

「ジャズサロン・プランナー育成講座」では、2019年に実施した同事業を基に、制作面の充実を図るとともに、コーディネーターとして起用したミュージシャンとの交流により、受講生の一般市民が、ジャズへの興味関心を深めながら自ら企画を立案し、プランナーとして学びができるよう工夫。なお、コーディネーターには、過去のパークジャズライブコンテストで優勝した地元ミュージシャン2名を起用。ミュージシャンにとっては観客のニーズを知ることやファン層の獲得に繋がるメリットがあり、受講生にとっては、理想の企画を現実にマッチさせていく方法を共に検討できるメリットがあった。企画にミーティングが欠かせないため、参集できない期間には、zoomを活用するなどコロナ禍でも柔軟に方法を探り、広報ではデザイナーや地元で著名なインタビュアーに外部講師として参加いただき、実践型の内容とした。

「ジャズセーバーズ」は、一般市民を公募し、高校生から80代までの約100名の市民が参加。接遇や撮影方法を学ぶための講師にはレセプションリストやフリーアナウンサー、イベントの公式カメラマンを起用し、対象者にあわせ、質の高い内容を習得できるよう配慮した。

「パークジャズライブコンテスト」では、審査員として地元マスコミ関係やFM放送局の役員に審査を依頼しているほか、ジャズ事業のネットワークを生かし、ブルーノートジャパンやジャズ専門誌の役員に審査を依頼。コンテストの信頼性を高めている。

上記のとおり、芸術の森が有する地域の人材、提携団体などの人的資源を活用することにより、事業の創造性を高めるとともに、信頼性のある事業を実施することができた。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### (1) 市民が活躍し、イベントを支える体制と企画の実施

コロナ禍で人同士の交流が大きく制限される中、公募で市民がボランティアとして参加する「ジャズセーバーズ」には、100名を超える応募があった。受付や会場制作などの運営スタッフや写真撮影スタッフとしてジャズイベントを支えるという役割のみならず、活動に参加すること自体が市民の交流と活躍の場となった。リピーターとして年度を超え活動を継続する人は過半数を超え、やりがいや生きがいに繋がっていることが窺える。また、上記のセーバーズの活躍の場をさらに深め、広げようとしたのが「ジャズサロン・プランナー育成講座」である。自らの企画をイベントとして実現させるスキルと方法について学び、将来的にジャズの企画を立案し運営できる人材を育てることにより、多彩なラインナップが生まれ、観客がアクセスできるチャンネルを増やすことに繋がり、イベントの成長が期待できる。2019、2021年に実施したジャズサロン・プランナー育成講座は、人材育成の実績を着実に重ねている。ジャズ事業を支える活動を通して生き生きとした人々の交流や新たな活動が生まれ、ジャズ音楽の振興だけでなく、魅力あるまちづくりに繋がっていると評価している。

### (2) 次世代育成に世界水準の育成のプロと地域のミュージシャンが取り組む

「ユースジャムセッション」では現代音楽の最高峰といわれるバークリー音楽大学の現役教授を芸術監督に迎えており、地元ミュージシャンもワークショップにサポート役として参加し、次世代の子どもたちの育成に共に取り組んでいる。両者がいることにより、参加者へのきめ細かい指導とフォローが可能となるとともに、この事業を通じた経験が今後の育成プログラムや手法を考える大きなヒントとなる。

このような事業を通し高い水準で人を育てる取り組みが、芸術文化の地域振興の最も重要な要素のひとつであると考えている。

### (3) 若手ミュージシャンのステップアップの機会の提供—継続による事業の信頼性

「パークジャズライブコンテスト」は海外ジャズフェスへの出場権の授与が参加動機となっており、コロナ禍で全国的にコンテストが中止になる中、道外からも多く応募があった。ライブ形式でのコンテストである点が大きな特色であったが、コロナ禍で県をまたいでの移動が制限される中、無観客でのライブ収録も参加が見込めず断念し、新たに提出を受けた音源による審査に変更。事務局では、参加者からzoomでの打ち合わせにより、ニーズや応募動機の聴き取りを行った。コンテスト終了後、審査員でジャズ専門誌ジャズジャパン社長の三森氏が出演者全員の講評を紙上に掲載、大きく紹介された。優勝バンド「草田一駿 五重奏体系」（埼玉県）は、2022年6月22日に1stアルバム「Flumina」を発売。

飛躍を求める若いミュージシャンにとって、より良い演奏への動機付けとなる機会、また自らを評価してもらい機会があることは非常に重要である。コロナ禍の中、ライブや練習の機会を失ったミュージシャンが飛躍のための場、また評価を受けられる場としてパークジャズライブコンテストに応募した、との声を複数の参加者から聴くことが出来た。真摯に音楽と向き合い、ステップアップしていきたいという若いミュージシャンの高い志の現れであり、道内バンドにとっても、道外からレベルの高いバンドが集うコンテストへの挑戦は大きな刺激となっており、ジャズの振興、若手参加による活性化が図られていると考えている。また、全国のジャズミュージシャンに認知されるコンテストが札幌で継続されていることは、市民にとっても札幌の評価として誇りとなると考える。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### (1) 事業を通じた人材育成

当財団では、美術館や舞台芸術、また工房でのものづくりなど、多岐に渡る事業を展開し、貸館等の施設運営、管理部門も有している。職員は定期的に異動することで経験を重ね、広い視野で財団が実施すべき事業や運営に関する能力を高めていることが求められる。また、適性や経験に基づき適材適所に職員を配置し組織力を強めることを目指している。

芸術の森事業課では、子どもから大人まで幅広い世代を対象とした音楽（ジャズ）やバレエでの人材育成事業、サッポロ・シティ・ジャズでの企業とのタイアップによる誘客・観光を目的とするライブ事業、一般市民から参加者を公募する無料ライブやボランティア活動などの地域活性化に繋がる事業など、様々な目的・内容の事業を展開している。公益財団の特性を生かした育成事業から企業への協賛営業まで、一般市民やアーティスト、関係各所とともに事業を実施することにより、様々な相手への対応力、事業の企画力、調整力、広い視野に基づく思考や判断力、またチームでの協同作業により協調性やリーダーシップの能力を得ることができるよう配慮している。

#### (2) 財政面ともに他団体の協力、ネットワークを生かし組織力を高める

ジャズスクールにおける協賛営業、サッポロ・シティ・ジャズにおける協賛営業などで協賛金を得て貴重な資金源となっているとともに事業への理解をいただいている。また、現物協賛や広報協力など、様々な支援をいただいている。資金面の援助のみならず様々な事業への理解は、財団への信頼に繋がり、組織が他団体と協力しながら組織力を上げていくことの一助となっている。

#### (3) 地域に根差し、認められる事業の開催による組織評価の向上

地域に必要とされる事業、次代に活躍する豊かな感性を養う人材の事業、年齢に関わらず活躍できる場のある事業など、人と地域を豊かにする事業を企画し、企業協賛を得ることにより、地元からの評価を受け、組織力が向上すると考える。

#### (4) PDCAサイクルでの評価

- ① 【計画/Plan】上記事業（人材育成事業、誘客・観光目的のライブ事業、地域活性化に繋がる事業）を組み合わせて計画
- ② 【実行/Do】実務経験にあわせ担当者が各事業を実施
- ③ 【検証/Check】事業実施後のアンケートによる事後評価及び改善項目の課内共有と改善方法の検討
- ④ 【改善/Action】検証を活かし実務における改善点を反映。次年度予算規模に即した事業規模及び内容の見直し

※検証の際には、各担当者からの項目別の改善点の収集を行い、共有を図っている。